

北緯43度線を迎えて

多文化都市トロント における移民街の情動

人文地理学

写真展 ×



2025. 3. 21 [金]
→ 5. 30 [金]

平日
のみ
開館

10年超に及ぶ移民街でのフィールドワーク
現地で撮影された写真群から
多文化都市と移民たちの実像を視る

🍁 時 間：9:00 - 17:00

🍁 観覧料：無 料

🍁 会 場：北海道大学文学部 1 階
「書香の森」展示スペース

| 主催 | 北海道大学大学院文学研究院
| 企画・監修 | 高橋 昂輝 (地域科学研究室)
| 企画 | 森田 昭徳 (地域科学研究室・院生)
芳賀 みの里・清水 龍之介 (同・学生)
| 印刷デザイン | 高橋 昂輝 (地域科学研究室)
| 協力 | 「書香の森」ワーキンググループ
浅沼 敬子・今村 信隆 (芸術学研究室)
佐々木 亨 (博物館学研究室)
橋本 雄一 (地域科学研究室)
森岡 和子 (研究推進室)

| 後援 | 札幌市国際部, 札幌市教育委員会,
北海道新聞社, 北海道地理学会,
在日ポルトガル大使館文化部



[ごあいさつ]

本展示は、札幌と同じ北緯43度線上に位置する都市、カナダ・トロントの移民街に関する写真展です。イギリスの公共放送局BBCによると、トロントは世界一の多文化都市とされ、総人口のおよそ2人に1人を移民が構成し、市内には、200以上のエスニック集団の人々が共に暮らしています。私はこれまで10年以上の間、トロントにおいて、主にポルトガル系移民街を対象に、フィールドワークに基づく人文地理学の学術研究を続けてきました。

この写真展では、学術的な表現から「こぼれ落ちる」移民街を舞台とする人々の営みや情緒に特に焦点を当てています。展示写真は、移民街に加え、トロントの市街やLGBTQ+のパレードなどで撮影されたものも含まれます。数千の写真の中から、学生・院生とともに選定しました。“TORONTO 43 SAPPORO”のオブジェは「外国地誌」の受講生約70名による共同作品です。このオブジェは、札幌で読まれる新聞、トロントの主要な新聞のほか、ポルトガル系移民コミュニティの内部で流通するエスニック新聞の古紙を使った、多言語新聞のコラージュ作品です。我々の社会で生産・流通・消費されるテキストの意味を文化や立場性の違いから問うものです。札幌から北緯43度線を辿って、トロントの街の賑わい、そして多様な文化を背景とする人々の営みを感じていただければ幸いです。



カナダは、全10の州と3の準州から構成されます。トロントは、南東部のオンタリオ州の州都であり、今日、人口・経済の規模において、カナダ最大の都市です。市内には約279万、大都市圏には約620万の人々が暮らしています(2021年時点)。

移民法の改正やケベック州の情勢不安などを背景に、1970年代以降、カナダ最大の都市かつ世界有数の多文化都市へと発展を遂げたトロントの市内には、10を超える移民街が存在するとされています。しかし、近年、その多くでジェントリフィケーション¹⁾と呼ばれる都市現象が生じ、移民の人口が減少する一方、観光地化が進み、移民街としての実態や真正性を喪失させつつあります。

2011年以降の私の調査では、市内でエスニック人口の集積度がこれまで最も高かったポルトガル系移民街を主な対象とし、その急変の様相を捉えてきました。一連の成果は、2025年3月「多文化都市トロントにおける移民街の揺動:ジェントリフィケーション・私的政府BIA・ローカル政治」(明石書店)²⁾として公開しました。詳細な内容について、ご関心のある方は、左記のQRコードよりご覧ください。



- 1) 「日本に迫るジェントリフィケーション」 2) 「多文化都市トロントにおける移民街の揺動:ジェントリフィケーション・私的政府BIA・ローカル政治」
講談社現代新書ウェブ、(2024年11月15日公開)
明石書店、(2025年3月19日発売)

北緯43度線を辿って 多文化都市トロント における移民街の情動

2025. 3. 21 [金]

平日のみ
開館

→ 5. 30 [金]

★ 時間: 9:00 - 17:00

★ 観覧料: 無料

★ 会場: 北海道大学文学部1階
「書香の森」展示スペース

主催 | 北海道大学大学院文学研究院
企画・監修 | 高橋 昂輝
企画 | 森田 昭徳・芳賀 みのり・清水 龍之介
印刷デザイン | 高橋 昂輝
協力 | 「書香の森」ワーキンググループ
後援 | 札幌市国際部、札幌市教育委員会、
北海道新聞社、北海道地理学会、
在日ポルトガル大使館文化部



[交通案内]

- 地下鉄南北線「北12条駅」より徒歩10分
- JR「札幌駅」より徒歩14分